

家庭・学校・地域の連携強化

PTAを中心とした地域連携への取組

東郷町立高嶺小学校 PTA

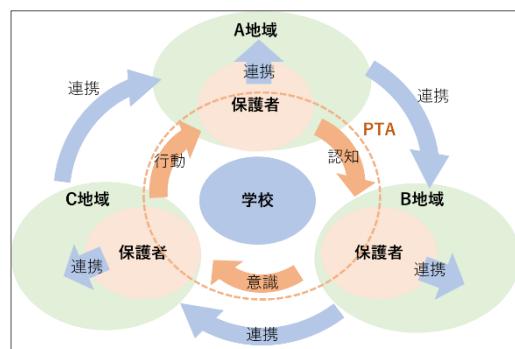
1 はじめに

近年、共働き家庭の増加や少子化が進むなど、社会環境は大きく変化し、自治会への参加者数の減少や子ども会の廃止などの地域活動が減少する傾向にある。

こうした社会の流れは、学校におけるPTA活動にも影響を与えるようになっており、加入率の低下とともに委員や役員選出が難航し、活動への参加者減少などが本地区でも課題となりつつある。地域や保護者の中には、一定の地域連携は必要だという考えはあるものの、ボランティア要素の強い役員や委員を引き受けたままで維持する必要はないといった考え方が多くなっている現状がある。

地域との繋がりが希薄になることで、保護者や地域住民は知らず知らずのうちに情報を得る機会を失っている。また、子どもへの关心や支援の意識の低下から労力を要する活動に対して懐疑的に捉える風潮に繋がり、地域内のトラブル解決を学校に依存する事例が発生するなどの影響もみられる。そのため学校の負担が増え、本来やるべき子どもへの教育に影響が出ることも懸念される。

盤石な地域連携に向けては、相互認知・意識・行動のサイクルが重要と考える。本研究では、PTAが地域と保護者・学校を繋ぐためにどのような役割を果たし連携を深められるのかを整理し、今後の展望を考察する。



PTAを中心とした地域連携のイメージ図

2 研究への取組み

本校PTAでは、地域と保護者・学校との繋がりの一助になるべく様々な活動に取り組んでいる。これら活動は、子どもたちに限らず多方面に向けたメッセージも発信できるポテンシャルがあると考えており、地域・学校活動に主体性をもち、関わっていくための意識向上の手段について研究する。

(1) コミュニティースクールの活用

学校を核とした地域づくりとして、校区の自治会長や地域有識者、保護者、教職員、行政職員が構成員となり「地域の未来を担う子ども達の育成」を目指して令和3年度に結成された。それぞれが抱えている課題を共有し、子どもを中心に考えた解

決の起点を作る場となっている。地域と学校が同じ思いで子どもに向き合い、支え合うことを目的とした組織である。

PTAもこの枠組みを主体的に動かすことで子ども達の生活環境改善へ働きかけをしている。

(2) 機動力の高いおやじの会

本校の特徴は、おやじの会を組織し、学校や子ども達への支援を積極的に行っていることである。令和2年度に父親ならではの活動の場を設けることを目的に結成し、学校や子ども達からの期待に応えながら活動の幅を広げてきた。会員数も年々増加しており、集まった会員は志が高く、主体的かつ柔軟性をもって楽しみながら活動ができている。機動力の高さも強みの一つである。

(3) 役割を再定義したPTA

本校のPTAは3部会（①生活部②教養部③広報部）から形成されている。本年度は役割を再定義し、周知した。生活部が子どもの環境を作り、教養部が子どもとの時間を作って広報部で周知していく。子どもが輝ける学校のために、親も積極的に共育に携わる仕組みを、各部会の存在意義として改めて示した。従来、任された任期の中で用意された役割をこなしていた活動であったが、目的をしっかりと理解することで、同じ活動でもより主体的に取組むことができ、達成感が得られるという効果があった。本来備えていた組織のポテンシャルを発揮できることに繋がると考えている。



3 実践活動の概要

本校では、PTAの負担低減策として数年前から「できる人が、できる事を、できる時に」をモットーとして活動をしてきた。聞こえが良い一方で、協調性や役員の強い推進力が必要といった持続性において脆弱な考え方とも捉えることができる。また、保護者の負担低減が目的化してしまい、子どものために必要な活動まで削減されてしまう流れについても再考が必要と考えた。

時代に見合った持続性のあるPTA活動に向け、減らすべきは『負担』ではなく『負担感』である。同じ活動でも視点を変えることにより価値を高め、負担感を減らすことができれば、子ども達のための活動の持続性が保たれることに期待ができると考えている。

(1) おやじの会を活用した当事者意識の牽引

子どもの成長に責任をもつ大人として重要なのは当事者意識

である。向上させる1つの手段が模範例を作ることと考え、おやじの会の活躍を通じて全体の意識向上に影響が出せないかを試行している。

まずは、子どもからも保護者からも一目置かれる活動である必要があり、「ブランド力」の向上を目指した。これまで、学校から要望を聞いて修繕的作業を担っていた活動は、主体性が低く映るイメージがあり、それらを払拭しようと試みた。

取組の1つが『おやじポスト』の設置である。子ども達からの要望を直接おやじの会に届けられる仕組みを作った。子ども達の提案に沿って活動を行い、その結果を掲示し、子ども達の思いの詰まった要望に応えている。ポストによるおやじと子ども達とのつながりは、子ども達におやじの会の存在の認知と団結感を相談する



選択肢が増えたことにによる学校生活への安心感につながった。運動会の片づけの際には校舎から「おやじありがとう！」という多くの声援をもらえた。一定の成果をあげた上で、活動を保護者・

こうじゅ 校舎	・ゆかをきれいにしたい ・こわれているところを直して ・ろうかやはいぜん室にエアコンほしい ・アリの巣ふさいで
たいいくかん 体育館	・てんじょうのバレーボールを取りたい ・トイレをきれいにしたい ・エアコンがほしい
こうてい 校庭	・遊具をきれいにしたい ・草むしりしてほしい ・砂をきれいにしてほしい
たかねの森	・森と畑の草むしりしてほしい
ほか その他	・バス通学にしてほしい ・白鳥公園に時計をつけて ・動物を飼いたい ・いろいろやってほしい

【おやじポストへの投稿内容】

行政にも積極的に発信し、有効性を示しつつ、主体性を持った活動として継続している。

今年度は、児童会との連携を試行する。子ども達が日常的に行っている活動からの意見におやじの会が答えることで、子ども達の成長に繋がることを期待している。また、子どもから各保護者にボトムアップで活動が伝わることで保護者の意識の底上げに繋がる更なる効果も期待している。

(2) コミュニティースクールを活用した環境改善

コミュニティースクールでは学校の運営方針の検討だけでなく、学校での困りごとや地域での活動紹介も行っている。学校が抱えるスクールガード減少の課題に対して自治会を通じて地域の老人会の方々に協力をいただけたようになつたことや、地域の方々を講師として学校の活動に参加していただいていることなど、コミュニティースクールの長所を生かして子どもの生活環境を改善するという行動が定常化できつつあると考えている。

(3) 交通安全活動を通じた地域連携

本校では地域ボランティアをはじめ、保護者を見守り隊として登下校及び放課後の過ごし方に注意を払ってきた。また交通安全の運動期間には、PTAが中心となり全保護者に対し立哨当番や巡回当番などの役割を分担して取り組んでいる。家庭の枠を超えた地域連携のきっかけとなる重要な活動だと考えている。



- ・ 登下校時、子どもと一緒に登下校
- ・ 通学路の交差点での立哨当番
- ・ 通学路の巡回
- ・ 学校帰宅後や休日の子ども達の交通安全の見守り
- ・ 地域での遊び方や地域の危険箇所の有無を確認
- ・ 1年生の児童と一緒に通学路を確認

(4) 地域活動における負担感の削減

地区ごとに資源回収があり、PTAが開催日を宣伝し地域の事業者が中心となって例年開催されている。得られた資金は全額学校に寄付され、子どもたちのための物品の購入に使われている。



昨年度は、熱中症対策用にテントを購入しグラウンドに常設した。設置が容易な新型テントを導入することで先生方の物理的負担の軽減と子どもの健康や安全の両立に繋がった。これまで成果の広報が弱かったため、PTA新聞でも「成果」と「子ども達と協力する意味」を伝え、保護者の共感に働きかけられるように情報発信を行った。

おやじの会においては、父親同士の強い繋がりが地域連携にも繋がる事例もあった。地域の夏祭りに参加する際、「子ども達と地域のために」という共通の志から設営に協力した。組織としてではなく、生まれた個人間の繋がりでの活動事例であり、まさに地域連携に向けた成果が出始めていると考えている。

4 おわりに

PTAは単なる「保護者組織」にとどまらず、「地域代表」「保護者の声の代弁者」として重要な役割を担っている。今後は、より多様な保護者や地域の意見を反映できる持続可能な仕組みと関係性の構築が必要となるが、まずは目的意識をもって情報発信をしっかりと行うことが重要である。学校、地域、保護者が三位一体となって子ども達の健やかな成長を支える「共育」の実現に向け、生きた情報を発信するPTAの役割はますます重要なになっていくだろう。